

豊原駅の歴史に触れて

町のJR駅シリーズ Vol.2



町内にはJR東北本線が通っており、通勤や通学、買い物や通院などのために利用されています。

町のJR駅シリーズでは全3回にわたり、多くの大々が関わって続いてきた「駅」のさまざまな歴史についてご紹介します。

豊原駅の歴史

豊原駅は関東地方最北に位置する駅で、町内で最も歴史の古い駅です。

開業当初水原地内にあった豊原駅は、1920年(大正9年)11月に、勾配などを避けるために黒磯駅から白河駅までのルートが変更されたことに伴い、現在の場所に移転しました。変更前の旧路線の多くは現在道路として利用され、俗に「旧線」と呼ばれています。

駅近くを流れる黒川にかかっていた旧路線の鉄道橋は、ルート変更後も残されていましたが、平成10年の那須水害で周辺が被災したこと、災害復旧工事に伴い撤去されました。橋台のレンガの一部は今も保存しており、ミニチュア版の橋台として復元され、黒川の河畔に展示されています。



駅の安全を守る

活動が続いています

矢の目にお住いの交通指導員の磯由起子さんは、認定農業士でもあり那須町農業委員としても活躍しています。交通指導員として平成15年に委嘱されて以来、毎朝、酪農の仕事を終えてから豊原駅へ向かいます。

磯さんは、通学する子どもたちが安心して電車に乗れるよう階段昇降や乗車に付き添い、安全確保に努めています。交通指導員の活動を通して長年にわたり児童たちの成長を見守り続けてきました。また、駅の待合室へのゴミ箱の設置やトイレの温水洗浄便座化などを要望し実現するなど、駅の環境整備にも取り組んでいます。日々の活動と功績が称えられ、平成29年10月には東日本旅客鉄道(株)から表彰されたそうです。



▲磯 由起子さん

駅舎が生まれかわりました

木造駅舎で無人駅である豊原駅は、大正9年に今の場所に建設され、98年が経過しました。老朽化による建替えが決定し、昨年8月に旧駅舎が解体され、今月、新駅舎が完成しました。

新駅舎は、外壁に旧路線の鉄道橋をイメージしたレンガ調を取り入れ、地元産の芦野石や八溝材を使用しています。また、町の花であるりんどうをアルミパネルの透過光で表現するなど、明るい駅舎に生まれ変わりました。

